

「東京湾岸ゼロエミッションイノベーション協議会」へ入会いたしました

この度、トーヨーカネツ株式会社(以下、当社)は「東京湾岸ゼロエミッションイノベーション協議会」に入会いたしましたのでお知らせいたします。

1. 「東京湾岸ゼロエミッションイノベーション協議会」の概要

多様なエネルギーサプライヤー及びユーザーが存在する東京湾岸エリアを、ゼロエミッション技術に関する世界最大の研究開発と実証・PRの場所として認識し、同エリアに拠点を置く機関のゼロエミッション技術に係る情報交換や連携の推進、また関連情報の積極的な発信を行うこと等を目的としている団体です。

政府の「革新的環境イノベーション戦略」の提言に基づき、2020年に設立され、国立研究開発法人 産業技術総合研究所(理事長 石村 和彦氏)に設立したゼロエミッション国際共同研究センター(研究センター長 吉野 彰氏(旭化成株式会社名誉フェロー))が運営事務局を担っています。

2. 入会の背景: 当社のマテリアリティと水素社会の実現を見据えた取り組み

当社は、「気候変動による事業環境変化への対応」をマテリアリティ*の一つとして掲げております。気候変動問題を、事業環境に大きな影響を及ぼす社会課題として認識し、当社の強みを活かしながら対応していくことが、当事業の持続的成長やSDGs達成への寄与に繋がると考えております。

当社はこれまで、液化天然ガス(LNG)をはじめとした極低温のエネルギーソースを貯蔵する大型タンクを、国内外に多数建設してきました。この長年の経験から培った技術を活用するほか、新規技術開発に注力していくことで、今後迎えることが予想される水素需要の拡大に対応すべく、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(以下、NEDO)のご支援*も頂きながら、引き続き大型液化水素タンク実用化に向けた研究開発を推進しております。

当社は、長年、東京都江東区(本社)、また千葉県木更津市(千葉事業所)を拠点として、物流・エネルギー分野に携わってまいりました。引き続き、世界的に加速しているエネルギーシフトの動きを新たな事業機会と捉え、上記の研究開発を進展させていくことにより、東京湾岸エリアをイノベーションの起点としたゼロエミッションの活発化に貢献することを目指してまいります。

*1 統合報告書「TKKレポート」P.18~もご参照下さい。https://www.toyokanetsu.co.jp/pdf/toyo_kanetsu_2324.pdf(PDFが表示されます)

*2 NEDOより、「液化水素貯槽の大型化に関する研究開発」のテーマで助成金事業を受託いたしました。詳細は2019年8月8日付プレスリリース「液化水素貯槽の大型化に関する研究開発に対するNEDO助成金の交付決定について」をご覧ください。

https://www.toyokanetsu.co.jp/pdf/toyo_kanetsu_2091.pdf(PDFが表示されます)

【お問合せ先】 執行役員 環境エネルギー渉外担当 國友 宏俊

TEL: 03-5857-3333

以上